

古賀志山に番号標識

「救助の1役担えれば」

NPO「守ろう会」山中27カ所に設置

宇都宮市の古賀志山（標高582㍎）で道標設置や登山道整備などの活動を行っているNPO法人「古賀志山を守ろう会」は9日、遭難した登山者が自分のいる場所を警察や消防に伝えることができるよう、山中に番号標識を設置する作業を始めた。遭難しやすい場所を中心に全部で27カ所に設置する予定で、3月末ごろまで作業を続ける。（斎藤有美）



番号標識は、縦横22㍎の正方形の黄色い板を使い、番号が大きく書かれ、目線の高さで見やすく自立つようになっている。この日は会員13人が参加して設置作業を進め、標識を木にくくりつけるなど8カ所で取り付けが終わった。

古賀志山は宇都宮市森林公園（同市福岡町など）からの登山道もあり、中高年古賀志山で番号標識を設置する「古賀志山を守ろう会」メンバー

9日午前

の登山者も多い。低山では北関東屈指の名山として知られる。登山道は複数あり、初心者向けコースがあり、一方、岩場を登るコースもあり、軽装の登山者が遭難するケースも目立つ。

また、遭難した登山者は自分の位置が分からず、救助に時間がかかる場合も多い。同会理事長の池田正夫さん（79）は「あまりにも遭難事故が多い。警察と消防が連携して、いち早く現場に急行できるような目安になるものを設置するのが願いだ。山岳救助の1役を担えれば」と話した。

県内全体でも、山岳遭難事故は増加傾向にある。県警地域課によると、平成24年25件28人（死者3人）で、27年は62件70人（同6人）と数年で倍以上に増え

た。昨年は36件39人だったが、死者は8人と多かった。同課は「110番通報を受けてGPS（衛星利用測位システム）で位置情報を確認するが、谷に滑落した場合など確認が取れないこともあり、発見に時間がかかることがある」という。県内には、登山道が整備されて登りやすいが、岩場や急峻な場所もあって注意が必要な山も多いという。

県内唯一のイノシシ専用
「イノシシ専用」の看板

まった。捕獲したイノシシ
「イノシシ専用」の看板

600万円台。だが、震災
「イノシシ専用」の看板